

大崎市主催 第2回おおさき未来の森づくり

(2024/6/16)

植樹活動の目的

大崎市鳴子温泉鬼首で毎年開催されている「おおさき未来の森づくり」は、森林の持つ多様な役割を学びながら、大崎耕土を潤す水源地域の森林保全を図るとともに、水源のかん養、地域の持続的な発展の為に毎年行われております。植樹場所は鳴子ダム上流の地域に位置しており、弊社社員も地域の水資源の保護・流域治水の一環として、毎年植樹活動に参加しております。

植樹活動の様子



サクラやケヤキの木を植樹



参加者の集合写真

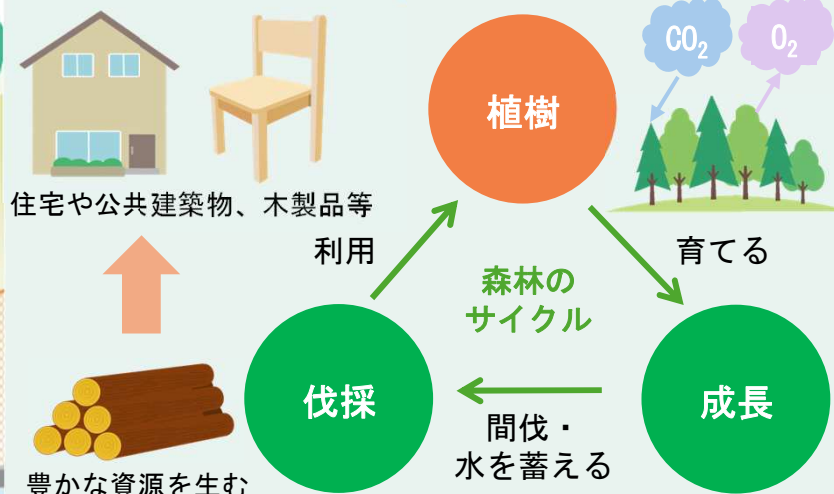
流域治水と植樹の関係とは

流域治水とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。植樹を行うことで森林が整備され、森林が持つ保水力を生かすことで洪水や濁水の緩和、土砂災害を防止する等の治水対策に繋がっています。



流域治水のイメージ：国土交通省HPより

森林の役割



SDGSの取り組みとして、植樹活動を行うことで森林の保護、地球温暖化の防止に貢献します。

流域治水と植樹は、水の管理や防災、生態系等を守りとても重要な役割を持っています。今後も、植樹活動を通じて地域の水資源を守り、流域全体の環境保護の為に活動を行ってまいります。